

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY REPORT ON PATENTABILITY (Chapter I of the Patent Cooperation Treaty)

(PCT Rule 44bis)

Applicant's or agent's file reference M-1293	FOR FURTHER ACTION		See item 4 below
International application No. PCT/JP2004/003617	International filing date (<i>day/month/year</i>) 18 March 2004 (18.03.2004)	Priority date (<i>day/month/year</i>) 20 March 2003 (20.03.2003)	
International Patent Classification (IPC) or national classification and IPC 7 G03F 1/14, H01L 21/027			
Applicant HOYA CORPORATION			

1. This international preliminary report on patentability (Chapter I) is issued by the International Bureau on behalf of the International Searching Authority under Rule 44 bis.1(a).
2. This REPORT consists of a total of 5 sheets, including this cover sheet.

In the attached sheets, any reference to the written opinion of the International Searching Authority should be read as a reference to the international preliminary report on patentability (Chapter I) instead.

3. This report contains indications relating to the following items:

<input checked="" type="checkbox"/>	Box No. I	Basis of the report
<input checked="" type="checkbox"/>	Box No. II	Priority
<input type="checkbox"/>	Box No. III	Non-establishment of opinion with regard to novelty, inventive step and industrial applicability
<input type="checkbox"/>	Box No. IV	Lack of unity of invention
<input checked="" type="checkbox"/>	Box No. V	Reasoned statement under Article 35(2) with regard to novelty, inventive step or industrial applicability; citations and explanations supporting such statement
<input type="checkbox"/>	Box No. VI	Certain documents cited
<input type="checkbox"/>	Box No. VII	Certain defects in the international application
<input type="checkbox"/>	Box No. VIII	Certain observations on the international application

4. The International Bureau will communicate this report to designated Offices in accordance with Rules 44bis.3(c) and 93bis.1 but not, except where the applicant makes an express request under Article 23(2), before the expiration of 30 months from the priority date (Rule 44bis .2).

		Date of issuance of this report 23 September 2005 (23.09.2005)
The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland	Authorized officer	
Facsimile No. +41 22 740 14 35	Yoshiko Kuwahara	
Telephone No. +41 22 338 90 90		

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

REC'D 17 JUN 2004

WIPO PCT

出願人代理人

後藤 洋介

様

あて名

〒 105-0003
東京都港区西新橋1丁目4番10号
第三森ビル

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)
15.6.2004

出願人又は代理人 の書類記号 M-1293		今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/003617	国際出願日 (日.月.年) 18.03.2004	優先日 (日.月.年) 20.03.2003	
国際特許分類 (IPC) Int. C17 G03F1/14, H01L21/027			
出願人 (氏名又は名称) HOYA株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。

第I欄 見解の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 第IV欄 発明の單一性の欠如
 第V欄 PCT規則43の2.1(a) (i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

01.06.2004

名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 多田 達也	2M	3011
電話番号 03-3581-1101 内線 3274			

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ

配列表
 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット

書面
 コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期

出願時の国際出願に含まれる
 この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第II欄 優先権

1. 次の書類が提出されていない。

優先権の主張の基礎となる先の出願の写し (PCT規則43の2.1及び66.7(a))

優先権の主張の基礎となる先の出願の翻訳文 (PCT規則43の2.1及び66.7(b))

したがって、優先権の主張が有効であると認めることはできないが、それでも、出願人の主張する優先日が基準日であると仮定してこの見解書を作成した。

2. この見解書は、優先権の主張が無効であると認められるので、優先権の主張がされなかつたものとして作成した (PCT規則43の2.1及び64.1)。したがって、この見解書においては、上記国際出願日を基準日とする。

3. 追加の意見 (必要ならば)

本願の請求項1に記載されている「主表面と面取り面の境界における基準面からの最大高さが-1 μm以上0 μm以下」とすることは、優先権の主張の基礎となる先の出願には記載されていない。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲 _____	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明

請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1(JP 2003-51472 A(信越化学工業株式会社)2003.02.21)、文献3(JP 2004-54285 A(HOYA株式会社)2004.02.19)からそれぞれ進歩性を有さない。

文献1には主表面と面取り面の境界から外周縁より内方3mmの間の領域において平坦である方が望ましいことが記載されている(要約、【0006】参照)。

文献3には、縁だれ量が好ましくは-1μm~0μmが好ましいと記載されている(【0062】)。
主平面と面取り面との境界から内側3mmの領域以外においても、主平面が平坦である方が好ましいことも自明な事項である。

なお、文献3には基準面の領域が明記されているが、本願には「基板のサイズに応じて適宜調節される」とのみ記載されており(7ページ)、発明が不明確である恐れもある。

請求の範囲2~4に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1、2(JP 2002-162726 A(ホーヤ株式会社)2002.06.07)から進歩性を有さない。

文献2には、転写パターンとなる薄膜を加熱することにより、膜の内部応力を低減することが記載されている。

請求の範囲5~8に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1、2、4(JP 2004-29735 A(HOYA株式会社)2004.01.29)から進歩性を有さない。

文献4には、平坦な基板を作るために研磨加工前に基板の形状を測定し、基板の相対的に凸状になっているところに圧力を大きくして研磨することが記載されている(請求項6, 8, 10参照)。